

Welfare [ウェルフェア]

「平成29年度 社会福祉助成事業 実施要綱」決定

2016

60

CONTENTS

P2 平成29年度 社会福祉助成事業実施要綱

くっきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業成果報告

P4 みんなの支援フォーラム IN 萩 ~E.G.Fからの実践報告と検証~
社会福祉法人E.G.F

P6 若年性初期認知症を知り、よりよく生きる(よりよく支援する)ための連続講座
特定非営利活動法人 コーポラティブハウス木の実

P8 日社済の紹介
日社済の事業案内

P10 「空飛ぶ車いす」アジアの人たちからのお礼状

「空飛ぶ車いす」青少年の活動レポート

P12 アジアに届け! 空飛ぶ車いすプロジェクト with Thailand
「空飛ぶ車いす」ボランティア活動「TV放映」—ホットニュース—

P14 「空飛ぶ車いす」今年も東北へ行く!

P15 福祉の共済コーナー

公益財団法人 日本社会福祉弘済会

社会福祉助成事業 実施要綱

主 旨

少子高齢化が進展するなかで、社会福祉制度の充実と福祉サービスの多様化が求められています。そして福祉サービスの提供にあたっては、利用者との対等な関係の確立やサービスの質の向上などが課題となっており、利用者のニーズに合った支援の充実を図るためには、支援業務に携わる方々の役割が重要性を増しています。

本会の助成事業は、そうした増大、多様化する福祉需要のなかで、社会福祉関係者の専門性向上などを旨とした「研修事業」や「研究事業」、また地域社会で草の根的に取り組んでいる“先駆的事业”に一部助成することにより、豊かな福祉社会の実現に寄与することを目的とします。

1 助成対象事業 / 助成内容

- ①社会福祉関係者の資質向上に関する研修や研究(下記A～Dの対象事業から1つ選択してください。)
- ②社会福祉事業でそのテーマや内容に先駆的要素またパイロット性があるもの
- ③事業の目的が明確で、実施後の具体的な成果が充分期待できるもの

	対象事業	対象経費	助成額
研修事業	A 集合研修 福祉サービスのあり方や専門的知識、技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業(研修会、セミナー、講演会など)	講師謝金・交通費 宿泊費・会場費 報告書作成費	助成対象項目経費 合計の80%以内 かつ50万円以内
	B 派遣研修 福祉施設職員などが幅広い視野と専門性を持って支援業務に携わるために、他の福祉施設、団体などで一定期間実習する派遣研修事業	交通費 宿泊費 報告書作成費	
研究事業	C 実践研究 各福祉分野の先駆性ある事業の実践を通して行われる成果、課題のまとめなどの実践研究事業	実践研究事業費 調査経費 報告書作成費	
	D 調査研究 社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業	調査経費 謝金・原稿料 報告書作成費	

2 助成金総額 / 事業実施期間

- ①助成金総額 / 2,000万円以内
- ②事業実施期間 / 平成29年4月から平成30年3月末までに実施される事業を対象とします。

対象とならない事業 営利活動、宗教活動、政治活動を含むもの。またこれらの目的のために利用される事業。

3 申請条件

- ①申請団体は社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体などします。
- ②法人格のない任意団体、グループは市区町村社会福祉協議会の推薦を得て申請してください。
- ③申請は1団体、1事業とします。
- ④反社会的勢力及び反社会的勢力と関係すると認められる法人、団体からの申請は受け付けられません。

4 申請方法

- ①申請書 / 平成28年9月以降に、当会ホームページからダウンロードしてください。
 - ②申請期間 / 平成28年11月1日～平成28年12月15日消印有効
 - ③提出先 / 〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-24-3
公益財団法人 日本社会福祉弘済会 助成事業係 TEL:03-3846-2172
- ※申請書に記載されている個人情報、本事業の選考に関わる業務にのみ使用し、それ以外には使用いたしません。

5 添付資料

申請時、下記資料を添付して提出ください。

- ①申請団体の定款(任意団体は規則、規定)
- ②申請団体紹介パンフレットや団体発行の機関誌など
- ③申請団体の前年度の事業報告、決算書
- ④申請団体の役員(会員)名簿

6 審査 / 結果通知 / 団体情報の公表

申請案件は本会「選考委員会」(2月開催予定)の選考を経て、理事会(3月)で決定します。
選考結果は、採否に関わらず決定後に各申請団体に書面にて通知いたします。
助成対象になった場合、団体名、代表者氏名、所在地、事業内容、助成金額等を公表させていただきますので、ご了承の上、お申し込み下さい。

7 助成事業の実施について

- ①助成事業の中止や事業内容に変更が生じた場合は、前もって書面でご連絡ください。
- ②助成事業に関わる広報資料や会議資料、報告書などに本会助成を受けている旨を明記してください。

8 事業完了報告書の提出

助成事業終了後1ヶ月以内に、完了報告書を提出ください。

- ①事業完了報告書(様式指定)
- ②事業成果物(講演レジメ、チラシなど)
- ③収支計算書(予算に合わせて申請事業全体の収支計算書を作成してください。その際、助成対象経費の領収書のコピーを添付してください。)
- ④事業成果原稿(様式指定)

※事業完了報告書の作成要領は、助成決定時にご通知いたします。

申請書はホームページからダウンロードできます。

<http://www.nisshasai.jp/>

● 助成事業成果報告

第3回 みんなの支援フォーラムIN萩

～E・G・Fからの実践報告と検証～

社会福祉法人 E・G・F

理事長 野稻 忠男

一、はじめに

社会福祉法人E・G・Fは、平成20年4月1日に特定非営利活動法人として設立。同年10月1日障害者就労継続B型、就労移行支援事業を定員20名でスタートしました。平成22年4月1日、社会福祉法人として認可。その後事業を展開し、平成27年度現在、就労継続B型事業、就労移行支援事業、生活介護事業、共同生活援助事業、(介護包括型)、短期入所事業、日中一時支援事業、相談支援事業、放課後等児童デイサービス事業の8種の事業を行っています。山口県萩市の山村に位置する法人は、地域の高齢化により農業の後継者不足が進む中、「福祉」という立場から、この農業を次世代に繋ぐ事が大きな役割だと思っています。障がいのある無に関わらず、豊かな自然の中で全ての命が活かされていることに気づき感謝する。そんな地域に根ざした福祉に取り組みたいと願っています。

二、助成事業概要

E・G・Fでは、支援の失敗と成功を、実践報告と福祉サービスの検証を行うことで、「他にどのような方法があるのか」「将来何が必要なのか」をフォーラムに参加の皆さんと一緒に提案したいと考えています。固定の枠にとらわれず、本音で語り合うことを目的とするのがこのフォーラムです。第3回となる今回は、基調講演に関西国際大学 教育学部 福祉学科教授 中尾 繁樹先生をお迎えし、教育現場の



最新の情報や、今どの業界でも課題になっている「人財育成」についてご講演いただきました。

三、事業の成果

今回の外部参加者は27名でした。法人職員の内部研修も兼ねているため、職員を合わせると80名の参加となりました。参加者の職種については、医療関係者、教育関係者、保護者、行政、相談支援事業所、そのほか福祉施設従事者と、ほぼ専門家と言われる方々でした。狙いの方向性としては悪くないと感じています。この中に、保育士が入るとより内容も深くなる気がしました。

内容として中尾先生の基調講演は好評で、「わかりやすさ」「即実践に役立つ内容」との感想が多く、「ぜひまたお話が聞きたい」との要望が出されました。先生が何度も強調されるのは、気になる子供達の早いうちからの発見と、適切な対応の必要性でした。適切な対応を先送りにすることで、成長過程で犯罪を起してしまうほどの事態になってしまう。居場所を失った彼らをだれが支援するのか。1人の人間

が成長する過程で、どれほどの大人が関わるのか。専門家とは、ただ断片的な一部分だけを見るのではなく、すべてを連続体としてとらえなければならず、他人事として流してはならないと感じました。そのためには、私たち専門家は人を観る力を養わなければなりません。



中尾先生が教授という立場で現代の学生をみて感じることは、「経験不足」「がまんする力が弱い」また、「福祉分野離れ」も感じているとのことでした。昔と違い、ものは豊かになり、考えたり知恵を出したりしなくても、情報はすぐに得ることのできる現代。すぐに得られる分、飽きるのも早い。社会背景も大きな要因であると感じました。しかし、「人が好き」であるかどうかで仕事として続けられるかどうかという先生の一言は、胸にスツと落ちた感じがありました。最終的にはこの一言に尽きるのです。

実践報告は今回初めて、外部の関係機関に発表をお願いし、ご協力いただいたことが大きな成果と言



えます。医療と福祉との連携は欠かすことのできない大きなパイプです。今回の発表で、精神科医療の抱える現実と理想のギャップを目の当たりにしました。昔の社会的入院とは少し内容が違っていますが、最終的に最後の皆に病院がならざるを得ない状況になるのです。果たして、それはどうなのか？措置から契約に福祉制度が変わり、そのことも大きく影響を受けているのがこのテーマの背景にあるような気がしました。我々は、福祉施設の立場から、実践を通し問題提起はできませんが、やはりそのほかの機関はまた違う課題を抱えています。次回も、当法人の実践報告だけではなく、外部の機関の取り組みを発表していただく方向を考えています。

全体的な評価としては、毎年開催することで実績を積み、関係機関のネットワークづくりの基礎ができつつあると感じます。今後は5年、10年という長期的な計画をもって臨みたいと考えます。

四、成果の広報・公表

今年度ホームページには、写真を掲載予定。

五、今後の課題

3回目にあたる今回のフォーラムでは、初めて当法人以外の機関から実践報告をしていただきました。精神科医療の課題として、施設でも、在宅でも生活できない障害をもつ人たちの行き場として今精神科病院に入院せざるを得ない人たちが存在すること、その人たちの支援の在り方としての取り組みについて、山口県立こころの医療センターより問題提起がなされました。障がいをもっている人たちの多様化により、生活のしづらさを抱えた人たちは増え、その支援の在り方は現在大きな問題となっています。病院だけの課題としてではなく、施設の在り方、行政の役割、相談支援事業所の役割といったそれぞれの連携がますます必要になってくることが垣間見えるフォーラムでした。また、私たちは施設の立場から考えてみた時に、施設に入る前の環境とその人が育ってきた背景を十分に把握することの大切さと、本当の課題はどこにあるのかを見極める力を求められていると感じました。早期発見、早期対応は予防にはならない。そうなる前に手を打たなければ、施設を利用する人はこれからますます増えてくる。愚劣少年のケアに携わる中尾先生の言葉には、私たち施設で働く職員の今後の在り方について、大きなヒントをいただいた気がしました。

このことから、今後もこのフォーラムを定期開催していくことを約束して閉会しました。

● 助成事業成果報告

若年性初期認知症を知り よりよく生きる(よりよく支援する)為の連続講座

特定非営利法人 コーポラティブハウス木の実

代表理事 横田 幸美

一、はじめに

当法人は、平成19年富山県が実施した「若年性認知症サポーター養成研修」を受講した、認知症の本人、介護家族、サポーターが3年間の勉強会や交流会をする中で「自分たちで自分たちの活動場所を作ろう」と、平成22年2月に法人設立、10月にデイサービス事業を開設し、「認知症になっても自分らしく生きるとはどういうことか」を課題として、活動をしている団体です。

これまで、若年性認知症の方の就労支援、若年性認知症の方の社会参加支援として、地域の方との交流活動を実施したり、地域の独居老人の庭の草むしりなどの活動を、認知症の方と一緒に実施したり、認知症の方の終末ケア等の研修や勉強会を広く地域の方に呼びかけて実施してきました。また、地域の認知症の方の相談も365日受ける活動をしています。

二、助成事業概要

若年性認知症という症状が広く知られるようになり、ご本人は介護保険サービスを利用されるようになりました。しかし、BPSDの激しさに介護家族は疲弊し、介護施設はケアの方法がわからずに戸惑っているのが実情です。また、ご本人は適切なケアを受けられずに苦しんでいます。

そこで、症状に合わせたケアの方法を知ること、ご本人とご家族が若年性認知症の特徴を知り、今後について考える手がかりを得ることを目的に、ご本人、介護家族、支援者、地域の人たちが参加できる研修会を計画しました。

- 1 専門家による認知症を理解するための講座を3回実施する。
- 2 認知症の進行の予防及び日々の生活に楽しみを見出すことを目的に音楽療法士による音楽会を月2回12ヶ月実施する。
- 3 認知症の進行の予防及び転倒予防や緊張をほぐしてリラクセスすることを目的に理学療法士によるリハビリ教室を月3回12ヶ月実施する。

三、事業の成果

1 専門家による認知症を理解するための講座
1回目「症状の特徴を知ってサポート」と題して認知症状をきたす疾患と特徴を知ること支援のポイントを理解しました。

2 回目「認知症介護を学ぶ。ひとりで悩まずに」と題して、ケアプランへのアドバイスや具体的な接し方等アドバイスを受け、ご家族に笑顔が出てきました。

3 回目「事例検討」と題して、実際に介護保険サービス事業所での事例を検討できました。

BPSDの症状として、暴言・徘徊・攻撃性のある女性の事例で、ケアが困難と言われがちな前頭側変性症の症状の方です。ご本人の症状の特性を知り、ご自宅の情報やご本人の経歴を共有し、施設のケアスタッフの考え方をご家族に伝え、家族と施設が共に「ご本人に寄り添う方法を身につけていこう」という内容の事例検討をしました。

事例の介護家族が、初めて自分の辛い胸の内を語り、娘さんが県外から駆けつけて参加してくだ

さり両親への思いや、自分の思いを率直に語って
くださいました。施設のケアスタッフも、考え方
やケアの内容を全体化し、講師のアドバイスを受
けながら本人への理解を深めていきました。

この方は、現在要介護4、BPSDは変わらざ
りにありますが、ご本人に寄り添うケアの糸口の探
し方やご本人の様子をひもとき、ご本人が安心で
きる環境作りやケアの方法をご家族と支援者と施
設が、諦めずに検討し続けています。

今回の研修により「学ぶこと」が必要であり、
学ぶことでご本人に寄り添うケアの手がかりが
つかめることを知りました。



2 音楽療法士による音楽会

月2回12ヶ月間、定期的の実施できました。

自宅に閉じこもりがちな認知症発症初期の方は、
外出をするチャンスを得たことと、地域の方と接
する機会を持てたこと、音楽の持つ楽しさを体験
することが出来、日課に楽しみを持てました。

この会を通じて「友達ができた、楽しみが出来た」
「認知症になっても外に出られることを知った」と
言われる方がいらっしました。

この活動は、音楽療法士 鹿熊千恵子氏により発
表されます。

3 理学療法士によるリハビリ教室

月3回12ヶ月実施できました。体の緊張をほぐ
して気持ちを楽にすることで、自分の感性を出し
やすくするところから取り組みました。

本人、家族、支援者が一緒に体操することで、
コミュニケーションや一体感が生まれ、気持ちを
ほぐして会話が生まれる自然な取り組みができま
した。

四、成果の広報・公表

若年性認知症の方は、記憶障害と実行機能障害が
早くから症状として現れ、BPSDが激しい精神症
状として表出しがちだと言われています。そのため、
本人が安心感や喜びを見出すことが出来るようなケ
アが困難になりがちですが、本人を知り、症状に合
わせた対応を学び、介護家族と支援者や施設が情報
を共有化していくことで、ありのままのご本人を受
け止めていけるようになることを学びました。少な
くとも「ケアを諦めなくていい」ことを学びました。

ともすると、ケアは専門家にしかできないことと
思ってしまうがちですが、学ぶことで認知症ケアは
怖くないこと、自分にもできることがあること、本
人を真ん中に家族と支援者と施設が連携を取り合え
ば、みんなで認知症の人を支えることが出来ると知
りました。

パーソンセンタードケアを目指して、「認知症もや
り方次第で何とかなる」ことを知ることが出来ました。

五、今後の課題

①介護家族と地域の方を対象とした「認知症ケア勉
強会」の実施。

②介護家族も施設のケアに参加していただき、ご本
人を中心にケアの方法や情報交換を共有化していく
活動の実施を計画しています。

認知症になっても、地域で自分らしく生きていけ
るための支援を、ご本人とご家族と支援者が、共に
担っていく活動を続けていきたいと思えます。本研
修は大変貴重でした。

会員施設向け事業

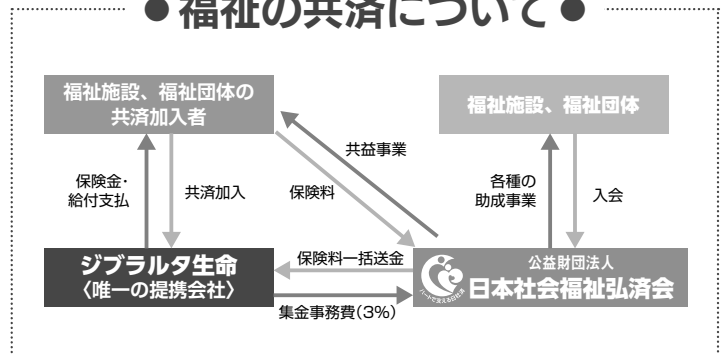
〈共益事業〉

社会福祉関係者の共済に関わる事業

日社済の各事業は「福祉の共済」の団体扱手数料等を財源にしています。

皆様が福祉の共済に加入されることでその収益の一部が日社済の各事業の源になっています。つまり、従事者相互の助け合いの制度に加入することで、結果として多くの社会福祉関係者の資質及び福利向上に貢献することにつながります。

●福祉の共済について●



●ご入会は

<http://www.nissasai.jp/>

▶ HOME ▶

▶ 日社済入会のご案内 ▶

▶ 専用入会届

日社済ライフサポート倶楽部

日社済会員施設対象

日社済ライフサポート倶楽部は、日社済会員施設（社会福祉法人施設）の役職員とその家族が、福利厚生サービス（宿泊施設・スポーツ・生活関連サービス）を会員割引価格で利用できる制度です。このサービスは福祉関係者の生活サポートを幅広く提供する「リゾートソリューション（株）」と本会が提携してお届けしています。

日社済ライフサポート倶楽部の年会費はお一人様500円ですが、下記の3項目を満たした場合は加入年度（3月が年度末です）の年会費は無料です。

1. 日社済会員（会費等一切不要です）として入会后1年以内の申込であること
2. 社会福祉法人等が運営する福祉施設であること
3. 加入年度無料となる対象は施設職員数100名様までです。それ以上はお一人様年会費500円です。（申込の際は原則として全職員の加入としてください）。

（注）加入年度無料サービスは予告なく変更になることがあります。その節はご容赦ください。

●詳しい内容は

<http://www.nissasai.jp/>

▶ HOME ▶

▶ 共益事業 ▶

▶ 日社済サポート倶楽部

空飛ぶ車いす支援事業

アジアの障害者への車いす修繕寄贈

日本では、毎年5万台以上の車いすが廃棄されています。まだ使えるのに「もったいない」と、全国28都道府県の工業高校生や大学生が車いすの再生に取り組んでいます。「空飛ぶ車いす」は、これまで27か国の8000人以上の子供や高齢者に車いすをプレゼントしています。再生された車いすは、旅行者などが飛行機で届けますので「空飛ぶ車いす」と呼んでいます。また、日社済ではパンクしないタイヤ購入や海外輸送費等に充当するため、書き損じはがきを集めています。

●「空飛ぶ車いす」は、多くのボランティアに支えられています。

はがき収集ボランティア

全国のはがき収集ボランティアから届けられた「書き損じはがき」を切手に交換し、さらに企業等の協力により切手を現金化して「パンクしないタイヤの購入費用」や「工業高校から国際空港までの車いす輸送費用」に充てています。

修理ボランティア

工業高校のクラブ活動や有志、生徒会などで車いすの修理を行います。

輸送ボランティア

ビジネスや観光などでアジア各国を訪問する際に、搭乗機手荷物として運びます。

●いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できるボランティア活動

対象	未使用、書き損じの官製はがき&未使用切手 ●年賀状、暑中見舞いなどで宛名を間違えて投函しなかった「官製はがき」 ●転居通知などで余分に印刷した使用しなかった「官製はがき」 ●会議、会合の案内や出席通知などで投函しなかった「官製はがき」など ●趣味で集めた記念切手や切手シートなど
期間	はがき収集は年間を通じて随時実施。いつでも、何枚でも受け付けています。
送付方法	送料は「元払い」でお願いいたします。お送りいただくはがきの枚数を数える必要はありません。 ★ご協力者の氏名、連絡先の明記をお願いいたします。
お問い合わせはがき送付先	公益財団法人 日本社会福祉弘済会 〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-24-3 TEL 03-3846-2172 FAX 03-3846-2185

●詳しい内容は

<http://www.nissasai.jp/soratobu/index.html>

社会福祉助成・支援事業

〈公益事業〉

社会福祉助成事業

日社済は法人発足の昭和59年度より、社会福祉関係者の資質向上に関する研修・研究や開拓的・先駆的な社会福祉事業などに対して、助成を行っています。助成金交付対象は老人福祉施設、知的障害児者施設、養護施設、保育所など福祉全般にわたります。

※助成要項並びに申請書は例年10月初旬にホームページに掲載されます。

例年11～12月に申請を受け、選考委員会（学識経験者）で選考後、翌年3月に助成先を決定します。

※助成先並びに実施事業名はホームページでご確認ください。

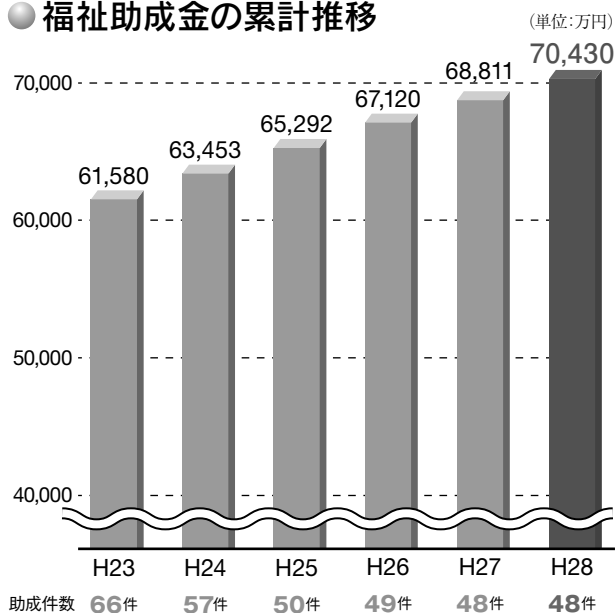
平成28年度までの
助成実績

2,214件
7億0,430万円

社会福祉事業者の

皆さんを応援しています！

● 福祉助成金の累計推移



アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会は、福祉の国際協力パートナー養成などを目的にアジア諸国のソーシャル・ワーカーを日本に招聘する事業を、32年間実施しています。本会では、日本とアジアの交流と福祉向上を目的にその方々が、帰国後研修成果を母国で活かして企画する福祉事業に助成しています。



出身国・地域

- 韓国 ● 台湾 ● フィリピン ● タイ ● マレーシア
- スリランカ ● インドネシア ● バングラデシュ



「空飛ぶ車いす」 アジアの人たちからのお礼状

今年度も学生たちによる「アジアに届け! 空飛ぶ車いす」の活動が行われています。平成27年度末現在27カ国、計8,094台の車いすを寄贈することができ、アジア各国の多くの方が喜んでくださいました。ここでは、車いすを受け取った方から届いたお礼状の一部を紹介いたします。(お礼状はご本人、または支援者の方からいただいたものです)

バングラデシュ

ルビナさん 女性 15歳
ノルシンディ県ベラボ郡タン・ロキプール村在住

ルビナさんはお父さん、お母さん、兄と弟、妹の6人家族です。ルビナさんはきょうだいの中で上から2番目です、お父さんはリキシャの運転手で、お母さんは家事をしています。

ルビナさんは両足に障害があり歩くことができません。3歳の時に高熱とけいれんを発症し、両親はノルシンディの県病院に連れて行きました。さらにダッカの病院にも連れて行き治療を受けましたが、完治には至りませんでした。

ルビナさんは現在9年生(編集注:日本の中学3年生に相当、以下同)です。ノルシンディ県ベラボ郡にあるチョール・アムラボハイスクール(小学6年生~高校1年生)のビジネスコースで勉強しています。きょうだいも学校に通っていて、お兄さんはバロイチャ・カレッジ(高校2年生~3年生に相当)に、そして弟は小学校に通っています。妹はまだ3歳です。

5年前に小学校が車いすを提供してくれましたが、その後、その車いすは壊れて使えなくなりました。しかし、家計が苦しいため、新しい車いすを買うことはできませんでした。日本から届いた車いすを使って再び学校に通えるようになったと、家族ともども喜んでいきます。



車いすを受け取ったルビナさんと、お祖母さん(後方)

バングラデシュ

アントール・ミア君 男性 8歳 ノルシンディ県ベラボ郡チョール・ベラボ村在住

ミア君は、おじいさんとおばあさんと一緒に暮らしています。お父さんは3歳の時に行方不明になり、その4年後にお母さんは再婚して別の家で暮らしています。

ミア君は脳性まひによる障害で、歩くことができません。生後3カ月の時にけいれんと高熱を発症し、両親は伝統治療師による治療を受けさせましたが、症状はよくなりませんでした。

おばあさんはミア君を学校に行かせたいと思い、2016年1月にチョール・ベラボ村にある宗教学校に入学させました。学校までの移動は、おばあさんがミア君を膝に抱えて送迎していましたが、毎日通うことはできませんでした。ミア君は車いすを必要としていましたが、家には農業をする土地がなく、家計に余裕がありませんでした。

私たちはミア君のことを聞いて早速連絡を取りました。そして、日本から届いた車いすを2016年3月15日に手渡しました。ミア君は、おばあさんに補助してもらいながら、この車いすを使って学校に通えるようになりました。ミア君はおじいさんとおばあさんとともにとても喜んでいきます。



車いすを受け取ったミア君と、おじいさん(後左から2番目)とおばあさん(同3番目)

インドネシア

カニヤさん 女性 22歳 西ジャワ州デポック市在住

カニヤ、22歳です。現在インドネシア国家開発計画省に勤務しています。私は8年前からアンチリン脂質症候群という病気とともに生きています。この病気は、血液の循環を誤って攻撃する自己免疫疾患のひとつで、病気の症状はめまい、バランスの難しさや麻痺です。そのため、今回支援していただいた車いすは私の生活をサポートしてくれています。

私は、神戸科学技術高校ボランティアの皆さまに感謝の気持ちを送ります。車いすは移動の時にとても大きな助けとなります。私だけではなく、必要とするほかの人にもとても大きな助けとなります(病院に行った時に、この車いすは他の人をも助けたことがありますということ。病院では、車いすの数が限られているからです)。皆さまの常に他人のために手を貸す善行は、多くの若い世代をインスパイアすることでしょう。



支援した車いすとともに。2016年7月

アジアに届け！

空飛ぶ車いすプロジェクト with Thailand

2016年8月30日～9月4日

日本社会福祉弘済会・福祉部長 加藤 高晴

今年の夏もタイ王国を訪問しました。昨年に引き続き、バンコクから北東に約650キロ飛行機で約1時間の場所にあるサコンナコーン県立サコンナコーン病院を拠点に活動してまいりました。

今回はFWS（新潟医療福祉大学）、KWR（神奈川工科大学）の大学生を中心に総勢19名で訪問し、車いすの修理ならびに贈呈式を行いました。

セレモニーにおいて、病院長からタイでは、まだまだ車いすを必要としている高齢者や障害者がたくさんいます。初めて利用する方、使用中の車いすがかなり古くなって交換を要する方が心待ちにしています。

高校生や大学生が参加したこのプロジェクトは大変すばらしい。今後是非継続してください。日本とタイの交流を進めていきましょうとのお言葉をいただきました。日本側からは本会近石理事がプロジェクトを代表してタイ訪問の挨拶をしました。



サコンナコーン病院でのセレモニー



梱包された車いすの開包

現地学生との共同修理活動

修理活動は日本の工業高校生が整備・点検した車いすが、既にコンテナ船で200台程到着しており、それを現地の高校生、大学生とコラボして意気の合った修理活動が行われました。また現地

大学生は自動車部に所属していたために技術的に質の高い、またスピーディーな修理活動が展開されました。



共同で修理するタイと日本の学生

車いすの受取

贈呈式においては、13名の個人の方、及び7団体の方が受け取りに来ていました。個人の方たちは朝早くからお見えになり、色や型、クッションなどご自分に合った車いすを選び、それから適合作業に入り皆さん納得の車いすを手に入れました。

なお、他にも病院に来ることができない5軒の家庭を訪問し、プレゼントすることができました。

詳細については、学生のレポートを交えて次号に掲載いたします。



贈呈式の様子

ホットニュース

「空飛ぶ車いす」TBSテレビで放映

「空飛ぶ車いす」ボランティア活動がTBS(NBS)テレビで10月15日(土)23時24分より放映されます。

当番組はEARTH Lab 1次の1000年を考えるーのタイトルで北豊島工業高校での車いす修理活動から始まります。輸送ボランティアの空港での受け取り、海外の利用者に届けられるまでの一連の流れをご覧ください。



北豊島工業高校の修理活動

空飛ぶ車いす、

今年も東北へ行く！

使われなくなった中古車いすを修理して、海外の人たちにプレゼントをする活動を続けている「空飛ぶ車いす学校グループ（28都道府県85校）」。東日本大震災の後は被災地の車いす支援にも乗りだし、東北3県に4百台超の車いすを贈ってきました。この活動は現在も続いています。震災から既に5年、今回は5月3日～5日のゴールデンウィークに神奈川県立大船渡市介護老人保健施設・気仙苑を訪問しました。その活動状況を報告いたします。

活動目的

- 東日本大震災から今年で5年が経過しました。私たちは震災当時から、女川町や大船渡市を中心にボランティア活動を行ってきましたが、今回、3つの目的をもって活動を行いました。
- 1 毎年訪れる女川町や大船渡市の復興の様子を見ること。
 - 2 ボランティア活動を通して、現地の方々と交流をし、最近の復興の様子についてお話を聞くこと。
 - 3 このボランティア活動が復興の役に立っているのか、またこの活動を継続する意味はあるのか、その必要性を考えること。

活動内容

活動の1日目は、女川町社協職員や特別養護老人ホーム・おながわ施設長から、現在の被災者の心情や、体験談を聞くことができました。修理作業終了後は、女川町中心地へ足を運び、女川駅やシーパルピア女川などに行くこともできました。

2日目は大船渡市で毎年お世話になっている介護老人保健施設・気仙苑で、車いす清掃、タイヤ交換を行いました。苑の協力で予定台数が早め

に終了しましたが、まだ施設で清掃する車いすがあるとのこと、最終的には17時まで作業を行いました。この日の午前中は、東海新報の取材があり、5日号に掲載され、この活動が多くの方に知っていただく機会となりました。

最終日は、各被災地の訪問をしながら大船渡市から仙台市への帰路となりました。

訪問者

KWR（神奈川県立工科大学）
院1年生 梅原直人
2年生 坂本一樹 2年生 羽賀大樹

FWS（新潟医療福祉大学）
4年生 上村佳世 4年生 柴田恭介
4年生 栗栖亜実 4年生 中野雅之
4年生 山口泰平 3年生 井上樹
2年生 満田滉一 1年生 藤田歩
1年生 越坂香南 1年生 市川瞳



シルバーピア女川



JR女川駅



大船渡市介護老人保健施設・気仙苑にて

— ジブラルタ生命保険株式会社の社会貢献活動 — 「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」を通じて 障がいのある子どもたちをサポート



「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」とは？

「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」は、障がいのある子どもたちとご家族を、閉園後の動物園や水族館に招待し、気兼ねなく楽しいひと時を過ごしてもらう国際的なイベントです。

1996年、オランダのロッテルダム動物園ががんを患っている子どもたちとご家族を招待したことから始まり、日本では2005年によこはま動物園ズーラシアで初めて開催されました。

ジブラルタ生命はこの趣旨に賛同し、2012年からこのイベントに協賛。2016年は北海道・千葉・東京・神奈川・広島・愛媛・高知・福岡・鹿児島 の9カ所の動物園や水族館をサポートします。

社員ボランティアが

大奮闘！

ドリームナイト・アット・ザ・ズーのイベント当日は、開催地近郊に勤務するジブラルタ生命の社員がボランティアとして参加。

動物フェイスシールのサービスやスタンプラリー、着ぐるみパフォーマンスなどで笑顔いっぱいのおもてなしをしています！



参加した 子どもたちの ご家族から…

⑩ 周囲に迷惑をかけてしまうのではないかと心配で、動物園に行くことを諦めていましたが、のびのびと遊ぶ子どもを見て、本当に嬉しかったです。

⑪ あんなに楽しい体験は初めてでした。スタッフの皆さんの温かい愛情と思いやりで包まれた気持ちの良い1日。あれほどリラックスして間近にきてくれる動物たちにも感謝しました。

ジブラルタ生命は、世界最大級の金融サービス機関
プルデンシャル・ファイナンシャルの一員です。



Gibraltar
ジブラルタ生命

「空飛ぶ車いす」は、日本で使われなくなった車いすを 日本の工業高校生が修理・再生して アジアに贈るボランティア活動です。

「空飛ぶ車いす」は、
多くのボランティアに支えられています。

修理 ボランティア

工業高校のクラブ活動や有志、
生徒会などで車いすの
修理を行います。

はがき収集 ボランティア

全国の「はがき収集ボランティア」から
届けられた「書き損じはがき」を切手
に交換し、さらに企業等の協力により
切手を現金化して“パンクしないタイ
ヤの購入費用”や“工業高校から
国際空港までの車いす輸送費用”に
充てています。

輸送 ボランティア

ビジネスや観光などで
アジア各国を訪問する際に、
搭乗機手荷物として
運びます。

いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できるボランティア活動。

参加要項

対象

「未使用、書き損じの官製はがき&未使用切手」

- 年賀状、暑中見舞いなどで宛名を間違えて
投函しなかった「官製はがき」
- 転居通知などで余分に印刷して
使用しなかった「官製はがき」
- 会議、会合の案内や出席通知などで
投函しなかった「官製はがき」など
- 趣味で集めた記念切手や記念シートなど

期間

はがき収集は年間を通じて随時実施。
いつでも、何枚でも受け付けています。

送付 方法

送料は「元払い」をお願いいたします。お送りい
ただくはがきの枚数を数える必要はありません。
●ご協力者の氏名、連絡先の明記をお願いいたします。

お問い合わせ・
はがき送付先

公益財団法人
日本社会福祉弘済会

〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-24-3
URL ▶ <http://www.nisshasai.jp/soratobu/index.html>
TEL.03-3846-2172 FAX.03-3846-2185